

愛泉会 セミナー

1人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

令和5年度中堅職員対象研修報告

サービスの質向上を目指し、愛泉会では様々な研修を実施しておりますが、今回は愛泉会に入職してから4年以上の職員を対象とした中堅職員研修を実施いたしました。テーマは「記録の書き方について」ということで、創造企画部庄司泰夫部長よりお話しいただきました。

職員にとって記録を作成することは、欠かせない業務の1つです。それは私たち支援員にとって、記録が利用者の情報を収集したり、その後の支援方法を検討したりするために、貴重な資料になるからです。そのため、記録は情報

を整理しまとめて記入しつつも、誰が読んでもわかりやすいものとなっている必要があります。中堅職員等にとって、記録が重要な業務の1つとして定着はしていますが、記録の目的やその書き方について再確認する機会を設けることで、よりよい記録づくりにつなげていくことを目的としてこの研修を実施いたしました。参加した職員からも、改めて記録の重要性を学ぶことができたといった感想が寄せられました。

今回は階層別研修として対象を中堅職員に絞って行いましたが、この研修内容については今後全ての職員に周知し、さらなるサービスの質向上に向けて取り組んでまいりたいと思います。

[創造企画部 支援員 塚田 実央]



令和4年度の実践研究内容を3号にわたりご紹介いたします。

第3弾 「デイサポートにじいろ」



コロナ禍でもできる本物の体験を ～体験を通して、意思決定支援に繋げていく～

デイサポートにじいろは18歳から76歳まで、幅広い年齢の方が利用されています。利用者には何か物事を選択していただく時、経験がないために選択することが難しい状況が見られていました。そこで、色々なことを経験していただき、選択の幅を広げ、自分で選択し、自分の気持ちを伝えていただくことを目標に取り組みを行いました。

一年を通して特に心掛けたことは「選択の機会を多く設ける」ということです。にじいろでは月1回お楽しみ活動を行っています。メニューなどを数種類用意し、好きな物を選んでいただける



ようにしました。創作活動を行う際にも色々な形、色、難易度の物を用意し、選択しながら取り組んでいただけるようにしました。

また、普段の生活の中で利用者本人が自分の気持ちを表すことができるようになることを目指し、声かけなどを行いました。自分の気持ちを言葉にして伝えることが苦手な利用者さんに対して、最初は職員が代弁し、その次は職員が「どうしました?」と声をかけ、ご本人が応え易い状況を作りました。そのことを継続した結果、今では自分の気持ちを言葉で伝えてくださるようになりました。

コロナ禍で“本物”の体験は制限されたこともありましたが、利用者には色々な事を経験していただき、少しずつですが選択の幅が広がっているように感じます。また、以前より職員に対する訴えが増え、表情が豊かになった方もおり、利用者から「自分の気持ちを伝えていいんだ」ということが伝わったのではないかと感じています。

今後も活動を通して色々な体験をしていただき、選択の幅を広げる、そして自分で選ぶお手伝いをして行ければと思います。

[デイサポートにじいろ 支援員リーダー 大場 祥子]

愛泉会の各委員会より

衛生委員会の活動について

衛生委員会は、愛泉会で働く全ての職員が安全で健康に働くことができるよう、安全教育、職場点検及び健康相談等に取り組み、健康障害予防や労働災害防止に努めることを目標に、各事業所の職員15名で活動を実施しています。主な取り組みとして、「労災防止の取り組み」「メンタルヘルスの取り組み」「健康管理への取り組み」「エリア委員会」があり、令和5年度も、年2回の委員会開催の他、リスク管理委員会と合同での職場危険箇所・労働環境点検やストレスチェック等を実施しています。また、昨年度より、協会けんぽの「事業所健康づくりセミナー」に申し込みをして、訪問型のセミナーを開催しています。今年度は、株式会社ドリームゲートより講師をお招きして、「簡単プチエクササイズ

とリフレッシュストレッチ」の内容でご講義いただき、健康寿命やメタボリックシンドローム、自律神経、水分補給等についてもわかりやすくお話ししていただきました。オンラインで会場と各事業所をつないで、休憩時間等に簡単にできるエクササイズやストレッチについて一緒に体を動かし、改めて、日頃から健康を意識して過ごすことの大切さを学ぶことができました。

衛生委員会では、定期的な委員会開催とエリアごとの活動・事業所ごとの活動の活発化と充実を図れるよう今後も活動を続けていきたいと思ひます。

[グループホーム支援センター心音 所長 武田 幹]

日々是好日

愛泉会で働いて...

愛泉会には様々な職種があり多くの職員が働いています。

今回は“ベテラン職員”にスポットをあてました。

多機能型事業所
なかやま虹の丘
事務員

吉田 久美子



2007年(平成19年)より当法人にお世話になり、今年で17年目になります。2012年障害者総合支援法が改正され障害のある方の日常生活や社会生活を総合的に支援するための法律へと変わり、地域移行支援が始まり愛泉会も今では山形市の西部、南部、北部と上山市、中山町、天童市と活動拠点が大幅に拡大しました。私は向陽園から北部、南部に移り現在は中山に勤務しております。左沢線の青い電車、四季折々の見事な田園風景に癒され通勤しています。入職当初から私は愛泉会を表現しているロゴマークが好きです。支援員同志手をつないでそっと利用者を守っているこのロゴマークいいですね。

愛泉会は今も変わらず法人設立40周年を迎えます。基本理念、経営理念を踏まえ次世代に繋げていきたいと思ひます。



グループホーム
支援センター
みらい 支援員

羽柴 一志



昭和61年に愛泉会に入職して38年が経とうとしています。昨年、3月31日に定年退職し今は嘱託職員としてお世話になっておりますが、これまで、沢山の利用者、保護者の皆様、そして職員に支えられ、多くのことを教えていただきました。

今まで勤務して大切だと思ひうことは、利用者とのコミュニケーション、受容と共感、職員間のチームワーク、地域との交流です。利用者・保護者の皆様と一緒に1泊2日の旅行などに行ったことは思い出に残っております。

利用者1人ひとりの笑顔が見られるように、利用者へ寄り添う支援が大切であると思ひます。これからも体に留意して頑張っていきたいと思ひます。

デイサポートさくら
支援員

河合 淳



入所施設向陽園開所から勤め早いもので37年が経ちます。当初は入所施設の厨房で調理員として働き、平成20年から現在までデイサポートさくらで勤務しています。調理員として働いている時、お食事を楽しみにしている利用者にも少しでも家庭的で温かみのあるお食事をつくることや何気ない挨拶や会話を大切にしていました。支援員として働き始めてからは、経験のない業務に不安もありましたが、利用者がいるいろんな体験や経験ができるように自分にできることは何かを考え、花や椎茸栽培、山菜取り、地域を知ってもらえるために城山散策やかし祭への参加などに取り組み、その都度利用者の嬉しそうな笑顔に癒され励まされたことを思い出します。障がいのあることで色々な辛さや寂しさを抱える方々が少しでも楽しく、心をまあるくしていただけるように今後も頑張ります。